

平成21年第4回大仙市議会定例会

市 政 報 告

平成21年12月4日
大仙市長 栗林次美

本日、平成21年第4回大仙市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。

今次定例会でご審議をお願いいたします案件は、人事案件2件、条例案9件、単行案23件、補正予算案7件の合計41件となっております。

各案件につきまして、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

なお、この場をお借りいたしまして、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況についてご報告させていただきたいと存じます。

はじめに、総務部関係について申し上げます。

本年度の職員採用試験につきましては、一般行政事務及び技術系の職員合わせて176名の申し込みがあり、第1次・第2次試験の結果、最終合格者を事務職11名、建築・土木職6名の17名としております。

防災対策につきましては、11月9日に日本電信電話株式会社秋田支店と「災害復旧時の協力に関する協定」の調印をしております。

協定の主な内容であります。災害時の通信災害の情報交換や避難所への特設公衆電話の設置、及びNTT所有の移動電源車や衛星通信車両などを提供していただくものであります。

これにより、本市が締結する災害時協定は、神奈川県座間市や県内12市など23市町村のほか、東北電力やNTTなど4団体、物資食糧などの供給をしていただく民間企業が10社、23店舗となりますが、今後は、ライフラインの確保などのため、建設業関係並びに電気工事及び管工事関係企業との協定締結を進めてまいりたいと考えております。

新型インフルエンザの11月末における市内の小・中学校及び幼稚園・保育園の感染状況につきましては、小学校では児童全体の28.2%に当たる1,184人が感染し、中学校では同じく29.1%の703人、幼稚園・保育園では19.0%の537人が感染している状況であります。

また、市内の高等学校につきましては、生徒全体の22.9%に当たる518人が感染している状況にあります。

ワクチン接種につきましては、11月16日から妊娠されている方及び基礎疾患のある方に対する接種が始まっており、1歳から4歳までの幼児について

は、12月7日から接種が始まる予定であります。

発熱外来センターにつきましては、11月7日に仙北組合総合病院内に設置して以来、11月末までに延べ742人の方が受診しており、年齢別に見ますと、1歳から9歳までが285人と多く、次に10歳から19歳までが281人となっており、全体の78%が19歳以下となっている状況であります。

今後とも、大曲仙北医師会並びに仙北組合総合病院との密接な連携のもと適切な対応をまいります。

次に、企画部関係についてであります。

定額給付金事業につきましては、本年3月16日に申請の受け付けを開始し、申請期間として定められた6カ月を経過した9月16日に申請を締め切っており、10月13日の最終振り込みをもって事業が終了しております。

この間、事業内容や申請手続きについて市広報等を通じて周知を図ったほか、申請の締め切り日近くにおいて、まだ申請されていない方には個別に連絡をとるなど、できるだけ多くの市民の皆様に申請していただけるよう努力してきたところであります。

事業の実績についてであります。対象世帯3万911世帯のうち、申請世帯数が3万766世帯で、申請率は99.53%であり、給付については、対象者9万2,848人のうち、給付者数が9万2,682人で、給付率は99.82%、給付額は14億4,778万4,000円となっております。

西仙北インターチェンジのETC専用スマートインターチェンジ整備事業につきましては、市道と接続させるランプの改良舗装工事並びに電気設備工事を10月に発注済みであり、平成22年度中の供用開始に向け、東日本高速道路株式会社とともに施設整備を進めてまいります。

また、インターチェンジの利用者増を図るため、市民及び市内事業所を対象に、新規にETC車載器を取り付けた車両1台につき3,000円を補助する事業につきましては、11月20日をもって申請の受け付けを終了しており、補助金を交付した車両台数は、個人所有分が963台、事業所所有分が48台の計1,011台となっております。

大仙市誕生5周年記念式典事業につきましては、本年第6回市議会臨時会でご報告申し上げ、すでに広報により市民憲章に盛り込むキーワードの募集を実

施中ではありますが、この市民憲章の制定と功労者等の表彰を合わせた記念式典を平成22年3月22日に開催いたしたく、今次定例会に関連する予算の補正をお願いしております。

男女共同参画事業につきましては、11月15日に中仙市民会館において、向井万起男^{まきお}氏による講演会並びに男女共同参画に関する写真・一行詩コンクールの表彰式を行っております。なお、今回で3回目となるコンクールには1,144点の作品の応募があったところであります。

国際交流につきましては、本年2月20日に国際教養大学と締結している「国際交流に関する連携プログラム協定」に基づき、市内小中学校の児童・生徒並びに幼稚園・保育園の園児が、国際教養大学の留学生と学校行事等を通じて交流を図っております。

9月から12月まで行う第Ⅱ期の活動は、中学校2校、小学校15校、幼稚園3園、保育園5園で延べ40回の交流が予定され、7月まで行った第Ⅰ期と比べ倍以上の交流活動となっており、日常的に異文化に触れることができる貴重な体験の場となっております。

また、協定締結を記念し、10月31日に協和市民センターで、「国際化と地域活性化を目指して」と題した公開講座を国際教養大学と共催で開催しております。

次に、市民生活部関係についてであります。

消防関係につきましては、平成23年5月末までに既存住宅への住宅用火災警報器の設置が義務化されているところでありますが、本市の住宅においては設置率が低く、これを少しでも高めようと、本年度申請のあった70歳以上の高齢者世帯など2,256世帯に対し、10月22日から11月30日までに市が無償で火災警報器を設置したほか、生活保護162世帯については、12月10日までに設置を完了する予定であります。

なお、設置に当たりましては、市の区域を29の区域に分割し、それぞれの地元業者に発注しており、地域の経済効果と火災警報機設置制度の周知をねらいとして実施したところであります。

また、秋田県消防協会大仙市仙北市美郷町支部が主催する「中学生防火弁論

大会」が、11月9日に西仙北東中学校を会場に開催され、市内西部地域の6中学校の代表生徒が意見発表を行い、防火防災意識の高揚を図っております。

安全・安心まちづくりにつきましては、大曲、南外及び太田地域において「安全・安心まちづくりアカデミー」を10月30日から12月3日まで5回にわたり開催しております。

また、11月17日には第2回安全・安心まちづくり推進集会を大曲市民会館小ホールで開催し、約450人の参加をいただき、防犯や青少年健全育成などにご尽力のあった6個人、1団体の表彰と本年の箱根駅伝で東洋大学を優勝に導いた本県出身の同大学陸上競技部コーチ佐藤尚^{ひさし}氏による基調講演を行っております。

地球温暖化防止につきましては、環境学習事業を8月に実施したほか、市内全校の小学4年生が取り組んだ「子どもエコチャレンジ」では、児童686名が1週間で308kgの二酸化炭素を削減し、「環境家族宣言」に参加した市内全中学校の1,645世帯、6,609名は1週間で3,925kgを、同じく公募により参加した一般市民の152世帯、491名は1カ月で1,696kgの二酸化炭素を削減しております。

また、走行中に二酸化炭素を全く排出しない電気自動車を県内の自治体で初めて公用車として導入しており、「秋の稔りフェア」において一般市民を対象に試乗会を開催し、65名の市民が電気自動車の運転を体験したほか、南外地域の秋まつりでも展示を行っております。

現在は、稲わらの不法焼却防止や廃棄物の不法投棄パトロールなどに利用しており、今後とも低炭素社会に向けたシンボルとして電気自動車を活用しながら市民の環境意識の向上を図ってまいります。

レジ袋削減につきましては、10月を「NOレジ袋推進月間」と定め、市内4カ所のスーパーマーケットで「NOレジ袋推進キャンペーン」を実施したほか、テレビCMの放映や保育園保護者会などの会合に出向いてPRを行うなど、レジ袋削減の啓発に努めております。

粗大ごみにつきましては、大曲地域及び仙北地域が有料戸別収集、その他の地域が無料拠点収集と、それぞれ収集体制が異なっており、「ごみ減量化」

「排出者責任の明確化」「負担の公平性の確保」の観点から、平成22年度から有料戸別収集に統一するための取り組みを進めております。

これまで、各地域協議会や保育園保護者会、婦人会等に出向いて説明を行ったほか、市広報で周知を図っており、今後は各地域において住民説明会を開催する予定であります。

次に、健康福祉部関係についてであります。

地域福祉計画の策定を契機として、今後の地域福祉のあり方や新たな支え合いの姿を目指そうと、11月30日に「地域福祉シンポジウム」を仙北ふれあい文化センターで開催し、一般市民や福祉関係者など約600人が参加しております。

シンポジウムでは、日本社会事業大学の橋本学長による基調講演や事例報告のほか、パネルディスカッションが行われ、今後の地域福祉に関する施策の展開などについて活発な意見交換がなされたところであります。

敬老会につきましては、9月1日から25日までの間に14会場で開催し、全体で4,861名の方が出席されており、盛会裏に終了しております。

金婚式につきましては、10月20日に仙北ふれあい文化センターで開催し、97組の出席のもと、結婚50年を祝福しております。

高齢者等除雪サービス事業につきましては、冬期間、自力で除排雪が困難な世帯を対象に、11月末現在で240名から申し込みを受けております。

また、増床工事を施工中の西仙北地域の特別養護老人ホームにつきましては、20床増床の「アリスの街」は11月末で工事を完了し、各種検査や手続き等を経て、平成22年1月中旬の開設予定と伺っております。

一方、30床増床の「ウォームハート」については、工期を平成22年2月末とし、同年4月1日からの開設予定と伺っております。

病氣中又は病氣の回復期のため、集団保育が困難な児童を一時的に預かる「病児・病後児保育事業」につきましては、大曲地域の「吉村クリニック」に加え、新たに10月から西仙北地域の「生和堂医院」に開設していただいたところであり、今後は本市全域において事業の周知に努め、子育て家庭の負担軽減を図ってまいります。

また、本年度、子育て支援に関する「大仙市次世代育成支援行動計画」の後期計画を策定することにしておりますが、その基礎資料とするため実施したアンケート調査の結果がこの程まとまりましたので、12月16日号の市広報に掲載し、市民に公表してまいります。

次に、農林商工部関係についてであります。

稲作につきましては、10月15日現在の農林水産省統計では、全国の作況指数は「98」のやや不良となっており、秋田県は「99」、県南は「101」のいずれも平年並と発表されております。

本年産米の管内の買入れ状況につきましては、JA等集荷業者の取りまとめによる11月18日現在の集荷状況は、101万7,283俵の集荷目標に対し94万4,069俵、集荷率は92.8%となっており、一等米比率は98.0%であるとの報告を受けております。

また、先般、平成22年度産米の都道府県別生産目標数量が県から公表されましたが、本県は前年比で5,290tの減と、新潟県に次いで大きな削減量となっております。

加工や直売を行っているグループ等から要望のあった米粉製粉機につきましては、10月21日に物産中仙株式会社へ導入しております。今後の製粉要望や学校給食用米粉パンの原料製造などの利用促進のため、関係者による「米粉利用促進連絡会議」を発足したところであります。

遊休農地の調査と再利用並びに求職者の雇用とを結び付けた事業を行うために設立した「大仙市遊休農地活用センター」につきましては、センター長以下7名で10月から活動を開始しており、現地調査は神岡地域から行っておりません。

平成11年度から実施の中仙南部地区担い手基盤整備事業並びに平成12年度から実施の仙北地域堀板地区担い手基盤整備事業につきましては、無事事業が完了し、それぞれ10月20日と23日に竣工式を挙行しております。

秋の稔りフェアにつきましては、10月24日・25日の両日、市役所駐車場、体育館、武道館、市民会館などを会場に開催し、天候にも恵まれたことから多くの人出で賑わったところであります。

また、各地域におきましても、中仙地域のジャンボうさぎフェスティバルをはじめ文化祭、地域祭、公民館まつりなどの多彩な催しが開催され、多くの市民に楽しんでいただいております。

第132回秋田県種苗交換会につきましては、10月30日から11月5日まで秋田市を会場に開催され、出品総数2,081点のうち、本市からは214点が出品されており、農林水産大臣賞を「水稲」部門で、また全国農業協同組合中央会会長賞を「水稲」部門、「株大豆」部門で受賞するなど、個人・団体合わせて46組が入賞し、本市農業の高い生産技術が評価されております。

第2回目の「大仙農業元気賞」につきましては、11月2日、市内の若手農業者で、新たな農業に挑戦し地域のリーダーとして頑張っておられる4名を表彰しております。

協和地域の美山湖フェスティバルにつきましては、10月4日に開催され、約2,100人の市民が民謡ショーや魚のつかみ取りなどで秋の一日を満喫しております。

また、西仙北地域で開催の東北将棋大会につきましては、11月5日から8日までの学生大会に東北の6大学から53名、8日の市長杯争奪戦の名人戦・一般・小学生の部に79名が参加し、それぞれ熱戦が繰り広げられております。

本市の新たな観光コースを発掘し、滞在型観光の推進を図ることを目的とした観光モニターツアーにつきましては、11月7日に国指定名勝「池田氏庭園」の秋季特別公開や酒蔵巡り、川ガニ料理体験などを組み入れて開催され、市内外から28名の参加を得たところであります。ツアー後、参加者全員から貴重なご意見をいただき、これを参考に今後の観光コースのメニューづくりや情報発信に活かしたいと考えております。

本年第3回市議会定例会でご承認いただいた観光圏整備事業につきましては、近隣市町村と連携を図り、2泊3日以上滞在型観光を促進する「観光圏の形成」を目指し、現在計画づくりを進めており、平成22年度以降の事業実施に向け関係市町村と協議を続けております。

出稼ぎ対策につきましては、11月末現在の出稼ぎ者数は254名となっております。

おり、前年同期と比べ34人減少しております。

また、大曲仙北医師会のご協力により実施されている、市内医療機関での就労前健康診断の受診状況は、84件との報告を受けております。

ハローワーク大曲管内における平成22年3月高校卒業予定者の就職状況につきましては、10月末現在で求人する事業所が、前年同期と比べ25.3%の減少となっており、求人数も52.7%減少しております。

本市が10月末現在で調査した、ハローワーク大曲管内の高校10校の市内在住生徒の状況については、就職希望者241名に対し、内定者は全体の約7割に当たる163名となっており、未内定者に対しては各学校で就職等の進路指導を今後も積極的に実施していくとのことであります。

このように就職環境が大変厳しいことから、10月23日にハローワーク大曲、秋田県仙北地域振興局、大仙市、仙北市、美郷町からなる「仙北地域雇用促進連絡会議」の主催により、「仙北地域新規高卒者就職面接会」を開催しており、61名の生徒が面接を行った結果、10月末現在で3名の生徒が内定しております。

今後においても、ハローワークなどと連携を図りながら、一般の求職者を含めた合同面接会などを計画し、早期就職につながるような支援を実施してまいります。また、現下の厳しい雇用情勢に対応するため、各高等学校、関係機関と連携を密にし、就職内定状況や国・県の支援制度等を見極めながら、市が実施する今後の支援策を検討してまいります。

技能功労者表彰につきましては、11月24日の表彰式において、建築大工、塗装、電気工事、自動車車体整備の4分野から、5名の方々を顕彰しております。

企業対策につきましては、神岡地域で進められている県の新規工業団地整備事業は、10月13日から1年間にわたる環境アセスメント調査に入っており、調査に当たっては、地元自治会長並びに広報等を通じて協力を呼びかけております。

経済危機対策として実施している企業支援・雇用維持緊急助成金につきましては、営業日における休業時間に行う奉仕活動に対して助成するものであり、

1 1月末現在で3社に助成金を交付しております。

企業誘致に関する動きでは、近い将来の当市進出を前提に、県外企業1社が新規高卒者2名の採用を内定しております。

次に、建設部関係についてであります。

大曲中学校屋内体育館建設工事につきましては、工事着工が遅れていることについて11月の市議会臨時会においてお詫び申し上げるとともに、早期着工に向けて工事関係者との調整を進めていることをご報告申し上げたところであります。工事につきましては、11月下旬から現場での準備作業に着手し、12月初めから杭打ち工事に入っており、予定工期の平成23年3月までの完成を目指してまいります。

なお、この件につきましては、本日の本会議終了後に、議員全員協議会の開催をお願いいたしております。

道路整備につきましては、市単独の道路改良工事29路線のうち12路線が完了し、11路線が発注済みのほか、地域活力基盤創造交付金事業4路線及び地方特定道路整備事業1路線については、全て発注済みとなっております。

本年度6月補正の地域活性化・経済危機対策臨時交付金事業につきましては、道路改良工事47路線のうち19路線が完了し、25路線が発注済みであり、橋梁の塗装工事については27橋のうち6橋が完了し、16橋が発注済みであります。

大曲駅前第二地区土地区画整理事業の建物移転につきましては、大曲中通町地区及び大花町地区の、本年度移転対象物件26戸のうち22戸の権利者と契約済みであり、現在、残る権利者と交渉中であります。

道路工事につきましては、現在施工中の区画道路8号線が今月中旬に完成する見込みであり、整地工事及び水路新設工事については、建物移転契約が整い次第、順次発注の予定であります。

また、大花都市再生住宅につきましては、全52戸のうち当初入居計画13戸を上回る20戸が入居済みであります。

大仙市都市計画マスタープランに基づく、用途地域策定業務及び都市計画区域の変更案作成業務につきましては、9月に発注済みであり、11月末現在の

進捗率は約40%となっております。

大曲駅周辺地区まちづくり交付金事業につきましては、駅東16号線道路舗装工事、しあわせ公園及び地域交流センター造成工事が完了しており、10月26日には平成22年度完成を目指している地域交流センター建設の安全祈願祭が執り行われております。

羽後境駅周辺地区まちづくり交付金事業につきましては、本年度が最終年度となっており、苅谷沢線道路整備工事は完了し、現在、駅東集会施設及び公営住宅8棟16戸の建築工事と苅谷沢中央公園の整備を進めております。

市営住宅の整備につきましては、地域住宅交付金事業で進めている西仙北地域の北ノ沢市営住宅2棟4戸の建築工事は、12工種の分離発注により、今月上旬に完了する予定であります。

住宅マスタープランの策定につきましては、平成22年度の完成を目指して、10月中旬に指名型簡易プロポーザル方式により発注しております。

平成20年度から建設を進めてきた仙北ふれあい公園整備事業の「大仙市ふれあい体育館」は、11月30日に竣工式及び見学会を行い、12月7日から利用が開始されます。

住宅・建築物耐震診断事業につきましては、大仙市建築設計協会と協定を結び、事前相談を行いながら進めており、11月末現在の利用件数は3件となっております。

建築確認準備事務につきましては、「限定特定行政庁」の設置に向け、現在県との事前協議や関係機関との調整などを行っており、今次定例会で関連する条例案のご審議をお願いしております。

公共下水道事業につきましては、4地域において補助・単独合わせて20件の管路工事、延長4.5km分を発注済みであります。

農業集落排水事業につきましては、3地区において補助・単独合わせて19件の管路工事、延長7.7kmが発注済みであるほか、処理施設建設工事については、太田地域三本扇地区において土木工事1件を発注しております。

次に、国、県関係工事についてであります。

雄物川中流部河川改修事業につきましては、刈和野橋から強首輪中堤左岸の

用地調査測量区間 2.9 km 及び買収済箇所^の盛土工事区間 2.8 km を発注済みと伺っております。緊急対策特定区間事業につきましても、事業促進のため引き続き用地補償を行うと伺っております。

また、南外地域西板戸地区につきましては、11月24日に地元説明会を終え、この後 1.7 km 区間の現地調査測量に入る予定と伺っております。

国道 13 号神宮寺バイパス事業につきましては、宮田交差点から都市計画道路大坪線までの 1.7 km 区間が 10 月 24 日に開通し、神宮寺地内の交通渋滞が解消されております。

大曲橋架け替え事業につきましては、橋梁下部工及び用地補償・水道施設補償が継続して行われております。

次に、水道局関係についてであります。

上水道事業につきましては、大曲橋架け替えに伴う大曲金谷町地区導水管の移設工事、南部流域下水道事業に伴う花館柳町地区配水管移設工事、及び大曲通町地区配水管改良工事については、それぞれ 9 月末までに完了しており、大曲駅前第二地区土地区画整理事業に伴う配水管移設工事を 10 月に発注しております。

簡易水道事業につきましては、平成 19 年度から 23 年度までの 5 カ年間の継続工事として発注している西仙北地域の大沢郷地区簡易水道施設整備事業については、配水管布設工事第 1 工区が 86.8%、第 2 工区が 76.4%、構造物建設工事が 90% の進捗率となっております。また、配水管布設工事の進捗に伴う現在の給水戸数は 187 戸であります。

仙北地域の戸地谷地区簡易水道施設整備事業につきましては、浄水場電気計装設備工事が 37%、浄水場機械設備工事が 80% の進捗率であり、浄水場外構工事は完了しております。

次に、教育委員会関係についてであります。

学校教育につきましては、昨年度から大曲中・大曲南中が取り組んでいる文部科学省指定「新しい環境教育の在り方に関する調査研究事業」の一環として、水中写真家の中村征夫氏^{いくお}が両校の生徒を対象に講演をしており、魚の生態

にたとえ、人を頼らず自立することの重要性についての話をされております。

なお、本研究の成果をまとめ、電気新聞主催の第4回「エネルギー教育賞」に応募した大曲南中学校が、同賞の最優秀賞に輝き、11月10日に東京で開催された授賞式に臨んでおります。

また、豊成中学校生徒会が、空き缶リサイクル活動の成果が認められ、生命保険会社などが主催する「ボランティア・スピリット賞」の「コミュニティ賞」を受賞しており、11月15日に札幌市で表彰を受けております。

発足後2年目を迎える大仙市PTA連合会につきましては、本年度から幼稚園・小学校・中学校に保育園も加わり、法人立・公立の幼児・小中学生の保護者の連携が深まってきております。11月4日に開催された第1回目の研修会では、読売新聞特別編集委員で本県出身の橋本五郎氏から「子育て」をキーワードとした講演があり、盛会裏に終了しております。

また、11月19日には、ふるさと先生として、本市中仙地域出身で千葉大学大学院医学研究院の鈴木信夫^{のぶお}教授と、同院の日本細菌学会理事長である野田公俊^{まさとし}教授が中仙中学校を訪れ、全校生徒に「ミクロの世界からのメッセージ」と題して、ウイルス感染症などを含む微生物に関する講演を行っております。さらに野田教授には、平和中学校において、同校の生徒及び神宮寺小学校・北神小学校の6年生児童を対象に、同様の講演を行っていただいております。

学校規模適正化につきましては、庁内関係職員による「学校規模適正化推進会議」を中心に推進しておりますが、西仙北地域においては幼稚園・保育園・小中学校保護者を対象に学校規模適正化に関するアンケート調査を行っております。その結果、回収率は91.1%であり、その中で「統合を進めてもらいたい」との意見が、小学校・中学校の平均値で85%以上となっております。今後は西仙北地域学校規模適正化検討委員会を開催し、地域の方々との合意形成を図ってまいります。

学校施設の耐震補強事業につきましては、耐震診断が必要な12小学校・9中学校・1幼稚園について、大きく三期に分けて耐震二次診断を実施しておりますが、このうち一期で発注した6校については、耐震補強工事の実施設計も終了し、工事費予算措置のため、国の地域活性化・公共投資臨時交付金の内示を待っているところであります。

また、残りの15校と1幼稚園につきましては、今月末までに二次診断及び耐震補強計画をまとめるよう作業を進めております。

生涯学習の推進につきましては、9月6日に市民交流将棋大会を、9月27日に市民短歌大会を、10月3日と4日に子ども囲碁大会と市民囲碁大会を、11月15日には市民俳句大会をそれぞれ開催しております。

また、高齢化社会をテーマとした大仙市民大学講座を10月に5回開催し、延べ464人が受講しております。

11月7日・8日には、大仙市芸術祭が大曲市民会館で開催され、舞台芸能を中心に約2千人の方々から楽しんでいただいております。

9月5日には第14回民謡秋田おはら節全国大会が、11月23日には第2回秋田飴売節大会が開催され、それぞれ盛会裏に終了しております。

また、去る4月29日を皮切りに、市内8カ所で開催された出前民謡「ふるさと民謡めぐり」につきましては、11月1日の南外地域での開催をもって全日程が終了し、延べ1,630人の方々から楽しんでいただいております。

文化財保護につきましては、太田地域出身の鈴木空如の作品展を10月31日から11月4日まで太田文化プラザを会場に開催し、約580人の方々から鑑賞いただいております。

今回の作品展では、貴重な学術資料として評価されている「法隆寺金堂壁画」の模写をはじめ、本年度から開始した鈴木空如調査研究による生家所蔵の中から、「ししゅごまるぎょうほんぞんけんぞくぞう四種護摩爐形本尊眷属像」を初めて公開し、学術的にも高い評価を受けたところであります。

また、空如は、「法隆寺金堂壁画」を生涯にわたり3回模写しているとされており、所蔵者や関係機関のご協力をいただきながら、11月の箱根吉池旅館所蔵の模写資料調査に続き、来年1月には、国立博物館所蔵の模写資料についても調査を実施する予定であります。

11月7日・8日には、国指定名勝池田氏庭園特別公開を行い、外観修復工事の終わった洋館と周囲を彩る紅葉を、市民や市外・県外客など約6,300人から見学いただき、文化財の修理・保存の重要性を再認識していただいております。

協和スキー場につきましては、第2ペアリフトの移設工事及び美山荘の改修

のほか、一部コースの拡幅工事を進めてきたところではありますが、11月末には完了し、12月26日には竣工式とスキー場開きを行う予定であります。

次に、平成22年度当初予算編成について申し上げます。

本市の財政は、景気の低迷や人口の減少を受け、自主財源の柱である市税収入の落ち込みに加え、急激な少子高齢化社会に伴う社会保障費やこれまでの各種事業の実施に伴う市債償還額の増大により、財政の硬直化が一層進んでおり、これまでにない厳しい状況に置かれております。

また、平成22年度からは、合併支援関連の普通交付税及び県補助金が約6億円の減額となり、大幅な一般財源の不足が見込まれているほか、財政調整基金についても平成21年度末残高が約9億円と見込まれることから、これまで行ってきた歳入補てんによる予算編成は困難であり、今まで以上に歳出の抑制を図った予算の編成に努めなければならないものと考えております。

一方、財政指標の一つである「実質公債費比率」が、平成20年度決算において18.9%となり、地方財政法の定める基準値を超えたことから、今般策定した「公債費負担適正化計画」に則り、今後比率の改善を図っていかねばならないことを踏まえ、本計画の柱でもある「市債発行額の抑制」を的確に予算に反映させていくことにしております。

このような状況下、平成22年度予算の編成に当たっては、昨年度の部局への枠配分方式から全ての事務事業について必要性や内容を検討する一件審査方式に変更し取り組むことにしております。

また、各性質区分ごとに概算要求基準を定めて予算の積算を行うことにしたほか、補助金審査委員会の提言に基づいた市単独補助金の見直しを継続してまいります。

特段の予算措置を伴わずに職員の創意工夫や既存資源の活用などで、住民サービスを行う、いわゆる「ゼロ予算事業」については、さらに積極的に取り組むこととし、「地域枠予算」については、各地域が主体性を持って諸課題に取り組むことで実績と効果を上げておりますので、なお一層内容の充実を図ってまいります。

本市は、これまで国に先駆け、独自の施策により子育て支援や高齢者対策等

の充実を積極的に推進しており、合計特殊出生率の向上などに施策の成果が着実に表れてきております。

平成22年度予算編成に当たっても、市民生活・福祉向上のため限られた財源を有効に活用し、創意工夫を持って将来を見据えた予算の編成に努めてまいりますので、今後とも市民並びに議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。招集のあいさつと諸般の報告とさせていただきます。